第４章　図書館ビジョン及び子ども読書プランにおける成果と課題

１　図書館ビジョン

札幌市はこれまで、二期、約 20 年にわたる図書館ビジョンに基づき、図書館サービスの「量的拡充」や「質的向上」の実現を目指してきました。

特に現行の第２次図書館ビジョンでは、基本理念として、**「市民の生活や創造的な活動を支える『知の拠点』となる図書館」**を目指して、今後の図書館を市民の読書活動の支援だけでなく、**「生涯にわたる学習を支える場」**、**「生活や活動に役立ち、新たな活動を醸成する場」**と位置付け、主に図書館サービスの質の向上に取り組んできたところです。

第２次図書館ビジョンの期間中においては、基本理念を実現させるため、３つの基本方針を定めて施策を展開してきており、主な取組内容や、その成果と課題は次のとおりとなっています。

⑴　主な取組内容

○　基本方針１「市民の生活や活動に役立つ図書館」として

▼　あらゆる世代の読書活動や学習活動を支援するため、郷土・行政資料などを含む幅広い分野の資料の収集に努めた
▼　パスファインダー[34]や相談事例集を作成し、ホームページ上に公開するなどレファレンス[35]機能の充実と利用促進を図った
▼　来館が困難な方も利用可能なメールによるレファレンスサービスを開始するなど、非来館型レファレンスサービスの充実を図った
▼　札幌市電子図書館を開設（平成 26 年（2014 年））し、電子書籍の貸出を開始するなど、電子サービスの充実に努めた

○　基本方針２「本・人・文化を結ぶ図書館」として

▼　読書への関心・学習意欲を高め、新たな活動に取り組むきっかけをつくるため、講演会や展示など、行事やイベントの充実を図った
▼　身近な学びの施設として、あらゆる方々が気軽に、快適に利用できるよう、図書資料や施設内の設備を充実するとともに、ユニバーサルデザイン化を図った
▼　一部の図書館で IC タグ[36]を試行的に導入（平成 28 年（2016 年））した（自動貸出・返却機設置）ほか、図書館システム[37]を更新した

---

[34] **パスファインダー**　直訳では「道しるべ」。特定のトピックや主題に関する資料や情報を収集する際に、図書館が提供できる関連資料の探索法を一覧できるリーフレットのこと。【『最新 図書館用語大辞典』柏書房、平成 16（2004）】

[35] **レファレンス**　何らかの情報や本などを求めている人に対して、図書館職員が求められている情報や本などを提供することによって援助する業務のこと。【日本図書館協会、平成 25（2013）】

[36] **IC タグ**　小さな無線 IC チップ。商品に貼付し、電波の送受信で承認の認識、管理などに利用される。バーコードよりも多くの情報を記録できる。【『デジタル大辞泉』小学館】

[37] **図書館システム**　札幌市では貸出、返却、検索、インターネット予約、予約本の配送管理、電子図書館など、図書館で提供している多用なサービスのほとんどが、通年、図書館システムを介して提供されている。オンライン図書施設は 43 か所、インターネット予約の件数は年間約 140 万件で予約全体の 8 割以上（令和元年(2019 年)実績）に達している。

○　基本方針３「広く情報を発信し、市民とともに成長する図書館」として

▼　図書館をより多くの方々に知ってもらえるよう、ホームページや図書館だよりなどの広報や普及事業の推進を図った
▼　サービス充実にさらに大きな効果が得られるよう、専門的情報・ノウハウを持つ関係機関やボランティア団体等とも連携した事業を実施した
▼　課題解決型図書館として、札幌市中心部に図書・情報館を開設（平成 30 年（2018 年））した
▼　来館者を対象としたアンケート調査を継続的に実施し、情報発信やニーズの把握などに努めた
▼　老朽化した施設・設備の維持管理のため、計画的な施設の改修に努めた
▼　運営の充実のため、資料の寄贈や図書館運営に対する寄附を呼びかけた
▼　研修等を通して職員の知識・技術の向上などに取り組んだ

⑵　第２次図書館ビジョンの成果と課題

⑴にあるように、第２次図書館ビジョンに基づく様々な取組を行うことを通して、レファレンスサービスや電子媒体の充実といった「提供する情報の充実、情報化への対応」、図書館を訪れるきっかけづくりや普及事業といった「利用者の拡大」、大活字本導入や施設のユニバーサル化推進といった「高齢者や障がいのある方へのサービスの充実」、児童書の充実や中高生向け取組といった「児童・青少年へのサービスの充実」、関係主体との連携やカウンター業務の効率化といった「図書館の効果的・効率的な運営」など、策定時に掲げた課題への対応に努めた結果、全体としては来館者の増加にもつながり、来館者アンケート調査でも図書館の全体満足度が第２次ビジョン策定前の水準からおよそ５ポイント上昇するなど、高い評価をいただくことができたと考えています。

このことは、これまでに行ってきた図書館サービス向上の取組が、全般としては一定の成果を挙げており、市民の皆さんから前向きな評価をいただくことにつながった結果と認識しています。

しかしながら、近年地区図書館の利用者数が減少傾向にあるなど、「利用者の拡大」に陰りがみられること、「情報化への対応」、「図書館の効果的・効率的な運営」などについては、未だ改善の余地があり、将来の社会の成熟などに伴って、市民生活や様々な活動に役立つ図書館としてのニーズが一層多様化すること、市民への情報発信や職員のスキルや施設運営体制などに、更なる改善や向上が期待されていることなどが、今後の課題として考えられるところです。

⑶　成果と課題を受けた今後の方向性

第２次図書館ビジョンの成果や課題から、新たな計画で更なる図書館サービスの充実を図るうえでも、二期にわたる図書館ビジョンで取り組んできた「量的拡充」、「質的向上」に関しては、これまでの前向きな評価を反映して、限られた資源を必要に応じて選択し、あるいは集中させながら、伸ばすべきところは伸ばしつつ、引き続き地道な努力を継続していくことが望まれていると考えられます。

その一方、これにとどまらず、多文化への理解促進や課題解決など、近年求められるようになってきた新たな視点に基づく取組も必要と考えられます。

今後は更に、身近な地域における市民活動や生涯にわたる学びの支援が重要であることから、利用者の減少傾向が見られる地区図書館について、地域の特色を生かした有効な活用策を検討することが望まれます。

以上のことを踏まえると、第２次図書館ビジョンの成果と課題を受けた今後の課題や目指したい姿、それに対応する取組の方向性は次のようなものと考えられます。

課題や目指したい姿など	今後の方向性
必要性とのバランスを見ながら、図書館サービスの「量的拡充」、「質的向上」も継続することが求められます。	協働・連携による取組、 サービスの選択と集中、 サービス水準の適正化、ニーズの精査
これまでとは異なる、新たな視点に基づくニーズに応える努力が必要です。	多文化理解、身近な課題解決、 民間活用
地域における市民活動の活発化や、生涯にわたる学びの支援、地区図書館の有効活用が望まれます。	地域活動の支援、生涯学習支援

コラム　《札幌市図書・情報館》

「札幌市図書・情報館」は、札幌の文化芸術の中心拠点である「札幌市民交流プラザ」に「札幌文化芸術劇場 hitaru」「札幌文化芸術交流センター SCARTS」とともに、平成30年（2018年）10月に開館した、札幌市で最も新しい図書館です。

蔵書をWORK「仕事に役立つ」、LIFE「暮らしを助ける」、ART「芸術に触れる」の３分野に絞り込むとともに、あえて館外への貸出しは行わず、常に最新の資料を手に取れることを優先しました。

また、どなたでも気軽にご利用いただけるよう、会話が可能、飲み物の持込が可能、ビジネスやその相談が可能といった、これまでの図書館の常識とは少し異なる「課題解決型図書館」を目指した施設であり、えほん図書館と並んで、機能を特化した図書館です。

開館以降、蔵書をご覧になるのはもちろん、セミナーの場やコワーキングスペースとして、多くの方に活用していただいていますが、今後もさらにビジネス支援や身近な課題解決に役立つ場として、市民の皆さんに「定着」する施設となるよう取組を進めてまいります。

２　子ども読書プラン

札幌市は、平成 17 年(2005 年)の当初計画策定以降、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に規定される計画として位置付けた、三期 15 年にわたる「さっぽろっこ読書プラン」(札幌市子どもの読書活動推進計画＝子ども読書プラン) に基づき、子どもが自主的に読書を楽しめる環境づくりに取り組んできました。

現行の第３次子ども読書プランでは、計画の基本的な考え方として、特に子どもの読書活動は、表現力や創造力を豊かなものにするとともに、個人の自立の基盤となる力を育むものとして欠くことができないものと捉え、子どもの読書活動に関する施策を総合的かつ計画的に進めることを目的に、前計画を継承する形で、基本目標を**「読書の楽しさにふれる」、「読書の大切さを知る」、「子どもの読書をみんなで支える」**として、社会全体で子どもの読書活動を進めるための支援策等を推進してきたところであり、主な取組内容や、その成果と課題は次のとおりとなっています。

⑴　主な取組内容

○　基本方針１「子どもの発達段階に応じた読書に親しむ機会の充実」の取組

【読書のきっかけづくりのための主な取組】

▼　年齢別おはなし会、乳幼児の保護者向けブックリスト配布、各学齢期に応じた行事などの取組を実施した
▼　家庭での読み聞かせを始めるきっかけづくりのため、乳児期に絵本を配布するさっぽろ親子絵本ふれあい事業を実施した

【図書館施設での主な取組】

▼　中央図書館に中高生向け図書コーナー「ティーンズの森」を設置した
▼　幅広い利用を促すため、えほん図書館で施設等の団体利用を受け入れた

【学校と連携した主な取組】

▼　一斉読書など実態に合わせた創意工夫による取組を実施した
▼　調べ学習等図書館を活用した授業や、職場体験等の受け入れを実施した
▼　全市立中学校に学校司書を配置したほか、小・中・高・中等教育学校図書委員（図書局）による特色ある取組発表などを行った

○　基本方針２「子どもの読書活動に関する普及啓発」の取組

【「子どもチャレンジプロジェクト」の主な取組】

▼　家庭・地域、図書館、学校等が相互に連携協力して、総合的に子どもの読書活動の普及・啓発を推進するために各種の取組を実施した
▼　具体的取組として、図書館デビュー[38]や小中学生向けキャリア教育（進路探究オリエンテーション[39]）、中・高生ビブリオバトル[40]などを実施した

【家庭読書の普及・啓発のための主な取組】

▼　「札幌市家庭読書の日」を中心に普及・啓発イベントを集中的に開催した
▼　小学校入学までに絵本を 1,000 冊読むことに挑戦する「めざせ！えほんマイスター」を実施した
▼　ぬいぐるみのお泊り会などの家庭読書を推進する取組を実施した

○　基本方針３「子どもの読書環境の充実」の取組

【図書館の施設環境充実に関する主な取組】

▼　乳幼児期から本に親しめることなどを目的に、えほん図書館を開設（平成 28 年（2016 年））した
▼　えほん図書館では、さっぽろデジタル絵本事業、読み聞かせ等ボランティアとの連携、施設等の団体利用受入、訪問おはなし会などを実施した

【学校の読書環境充実に関する主な取組】

▼　読書や調べ学習で活用する寄託図書の充実に取り組んだ
▼　学校図書館・公共図書館等を活用した授業研究を実践した
▼　開放図書館の新規開設に取り組むとともに、ボランティア養成のための研修を実施した
▼　「ブックさぁくる」や「さっぽろ本の再活用パートナーシップ事業」など、図書資源ネットワークの活用に取り組んだ
▼　学校図書館ボランティアの派遣など、学校図書館機能の充実に取り組んだ

【その他の読書環境充実に関する主な取組】

▼　学校や施設、団体等との連携に取り組んだ
▼　障がいのある子どもたちへの充実した対応の研究を実施した

---

[38] **図書館デビュー**　図書館を利用したことがない、もしくは利用経験が少ない就学前の子どもとその保護者を対象に、図書館や本の楽しさを体験しながら、自然と本に親しみ、進んで読書習慣を身に付けるきっかけとするためのイベント。「読書チャレンジ・子どもの読書活動推進事業」の一環として、平成 22（2010）年から実施。

[39] **小中学生向けキャリア教育（進路探究オリエンテーション）**　小学生を対象として、図書館等を活用した調べ学習活動の推進や小学生の進路探究学習への支援を行うもの。

[40] **ビブリオバトル**　それぞれがオススメの本を紹介し、「読んでみたい」と思った本に投票してチャンプ本を決めるイベント。

⑵　第３次子ども読書プランの成果と課題

第３次子ども読書プランでは、三つの成果指標「普段読書する子どもの割合」、「読書が好きな子どもの割合」、「月１回以上図書館に行く子どもの割合」を設定し、上記のような家庭や地域、図書館、学校等における様々な取組を実施してきました。

「普段読書する子どもの割合」は、全国平均[41]と比べた場合、札幌市の割合が若干上回るものの、小学生、中学生ともに減少傾向にあります。

また、「読書が好きな子どもの割合」については、小学生では割合の増加が見られたものの、中学生ではやや減少しており、教育段階が進むにつれて読書に費やす時間が減少する傾向には変わりありません。

さらに、「月１回以上図書館に行く子どもの割合」は、中学生では当初の水準を維持していますが、小学生では減少傾向が見られます。

【子どもの読書活動推進計画の成果指標】

	当初値 平成 26(2014)年度		現状値 令和元(2019)年度		目標値 令和２(2020)年度	
学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）１日当たり 10 分以上読書する子どもの割合	小６ 中３	66.0% 57.3%	小６ 中３	65.8% 51.0%	小６ 中３	70.0% 70.0%
読書が好きな子どもの割合	小６ 中３	75.9% 74.9%	小６ 中３	77.4% 72.7%	小６ 中３	78.0% 78.0%
昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・室や地域の図書館に月１回以上行く子どもの割合	小６ 中３	39.4% 15.1%	小６ 中３	33.9% 15.3%	小６ 中３	55.0% 26.0%

このようにプランに基づいて様々な取組を行ってきた結果として、一部で従来と比較して改善が見られましたが、残念ながら、成果指標で目標として掲げた数値の実現には至っておらず、これは今後に向けた課題と言えます。

また、デジタルメディアの急速な普及をはじめとした現在の子どもたちを取り巻く情報環境の変化からみて、読書活動の推進や活性化は容易ではありませんが、こうした環境の変化に柔軟に対応すべきことも課題と考えられます。

⑶　成果と課題を受けた今後の方向性

先に触れたように子どもの読書活動の指標の状況から、子ども読書プランの取組としては、子どもの読書活動を十分に活性化させるには至らなかったと言わざるをえませんが、アンケートの回答などを見ると、読み聞かせや図書館デビューといった主に来館型・参加型の取組など、個々の取組自体は一定の評価をいただいていると思われます。

[41] 「全国学力・学習状況調査」小学校６年生 65.7%。中学校３年生 50.4%【国立教育政策研究所、（令和元(2019)】

また国や道においても、これまでの取組で目標とした進度での指標達成は実現できておらず、発達段階ごとの取組や読書への関心を高める取組といった、地道な取組を継続する方向性であること、子どもの読書活動の推進について、目指したい方向性はこれまでと大きく変わらないことなどを踏まえると、引き続き子ども読書プランの考え方に沿って着実な努力を続けていくことが必要と考えられます。

そうした中でも、時代は刻々と変化していることを考慮して、ニーズや、必要性が高いと思われるものを中心に、将来を担う子どもたちに役立つ取組を行うことが望ましいと考えられます。

以上のことを踏まえると、第３次子ども読書プランの成果と課題を受けた今後の課題や目指したい姿、それに対応する取組の方向性は次のようなものと考えられます。

課題や目指したい姿など	今後の方向性
今以上に授業以外でも読書する子どもが増えることが望まれます。	読書のきっかけづくり、 読書活動などの支援、 訪れやすい施設環境、 特別支援・バリアフリー、 身近で本に触れられる環境づくり、 読書や図書館への興味・関心を促す
今以上に読書が好きと言える子どもが増えることが望まれます。	
今以上に図書館を活用する子どもが増えることが望まれます。	

コラム　《札幌市えほん図書館》

乳幼児期のお子さんがのびのびと楽しく過ごせる絵本専門の図書館として、平成２８年（2016 年）11 月、白石区複合庁舎の新設に合わせて開館しました。蔵書は、絵本を中心に約 25,000 冊。大型絵本、紙芝居、布の絵本や点字絵本などのバリアフリー絵本、外国語の絵本、絵本に関わる一般書なども取りそろえています。

館内には、くつろげるコーナーやソファが設置されており、声を出しての読み聞かせも歓迎です。また、「年齢別おはなし会」や「図書館デビュー」などの行事、小学校入学前に 1,000 冊読破に挑戦する「めざせ！えほんマイスター」など、お子さんが図書館や読書に親しむための取組も多数行っています。

読み聞かせボランティア団体や、本の修理などを行うサポーターの登録制度を取り入れていることも特長の一つで、たくさんの大人が支える図書館でもあります。

今後も、お子さんたちがワクワクするような図書館、すばらしい絵本との出会いを提供できる図書館を目指してまいります。